

橋梁技術 発表会

平成
18
年度

メインテーマ 橋梁技術の最先端

社団法人 日本橋梁建設協会主催

13:00~13:05
開会の辞 橋梁技術発表会実行委員会 委員長

第1部：技術発表会

13:05~13:45
1.長大橋の合理的な構造形式
—ラチストラス橋(紀勢宮川橋)— [技術委員会設計小委員会]

13:45~14:25
2.CFT部材を使用した長大橋の架設技術報告
—新西海橋の施工— [技術委員会架設小委員会]

14:25~15:05
3.保全工事の施工事例
—トラス橋の支承取替え工事— [保全委員会保全技術小委員会]

15:05~15:45
4.海外工事報告
—カルキネス橋梁(米国:吊橋)の工事概要と紛争解決手法—
[企画委員会国際小委員会]

15:45~16:00 休憩

第2部：講演会

16:00~16:05
挨拶 社団法人日本橋梁建設協会 副会長 山川 朝生

16:05~16:45
1.鋼橋の設計
—性能照査限界状態設計法で
何が変わるか—
長井 正嗣(長岡技術科学大学 工学部
環境・建設系 教授)



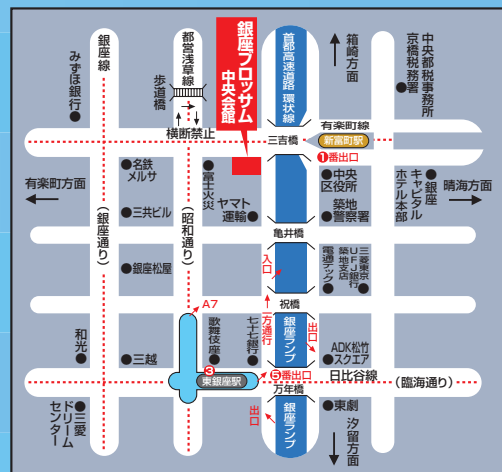
16:45~17:25
2.これからの品質管理
西川 和廣(国土交通省 国土技術政策総合研究所
研究総務官兼総合技術政策研究センター長)



17:25~18:05
3.鋼橋建設業界の再生に向けて
伊藤 學(社団法人 日本橋梁建設協会 会長)



18:05~18:10
閉会の辞 技術委員会幹事長



●東京メトロ有楽町線「新富町駅1番出口」 徒歩1分
●東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線「東銀座駅3、5番出口」 徒歩8分

2006
10/5

日 時 / 平成18年10月5日(木) 13:00~18:10
会 場 / 銀座プロッサム 中央会館 ホール 〒100-0012 東京都中央区銀座2-15-6 Tel. 03-3542-8585
申 込 方 法 / ① Eメール(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>の「技術発表会申し込み受付」まで(受付は8月中旬から)
② Fax(指定の用紙に記載) Fax. 03-3561-5235
申 込 期 限 / 平成18年9月15日(金)
主 催・連 絡 先 / 社団法人 日本橋梁建設協会 〒104-0061 東京都中央区銀座2-2-18 鉄骨橋梁会館1階
Tel. 03-3561-5225 Fax. 03-3561-5235
※CPDS認定予定(継続学習制度)

※大阪地区では、第1部の「技術発表会」の開催となります。
開催日は、10月24日(火)で定員250名です。申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

会費無料
定員 600名
申込先着順

1.長大橋の合理的な構造形式

－ラチストラス橋(紀勢宮川橋)－

本橋は、長径間橋梁への適用を目指した合理化トラス橋で、ラチス構造(ダブルワーレン)を採用して格間長を短くし、主構造にH形鋼を採用しています。床組構造はPC床版を採用することで省略し、また合成トラスとすることで鋼重の減少と全体剛性のアップを図っています。中央径間の4橋脚で上部トラスと下部トラスを剛結して耐震性向上を図るとともに、トラベラークレーンによる張出し架設を可能としています。

2.CFT部材を使用した長大橋の架設技術報告

－新西海橋の施工－

新西海橋は、新設道路橋としては国内で初めてのコンクリート充填鋼管(CFT;Concrete Filled Tube)アーチ橋で、充填作業の実施に先だって、様々な検討、試験を行いました。また、橋体の架設に際しては、国内最大規模のケーブルクレーン設備を使用しました。これらの内容を含め、本橋の製作・架設の状況について報告します。

3.保全工事の施工事例

－トラス橋の支承取替え工事－

橋梁構造物の耐震補強に伴う支承取替え工事では、プレートガーダー橋の施工実績は多く、工法も確立されています。今後はトラス橋やアーチ橋などの大型橋梁、あるいは長大トラス橋や斜張橋などの長大橋梁の耐震補強工事が残されており、大反力の支承取替え工事に対応していく必要があります。今回の発表はトラス橋の支承取替え工事に着目し、施工実績から代表的な工法について、概要、施工手順、留意点など紹介します。

4.海外工事報告

－カルキネス橋梁(米国:吊橋)の工事概要と紛争解決手法－

本橋は、中央支間728m、全長1055mの3径間連続吊橋で、アメリカでは約30年ぶりの長大吊橋です。補剛桁は、日本にて大ブロックに組み立てられ、現地に海上輸送されました。一般に、米国の契約では、工事中に紛争が生じることを前提に、その解決を助ける条項が準備されています。今回、本工事契約における紛争解決のための条項と、その処理方法を中心に報告します。

第2部:講演会 講演者の紹介

長井 正嗣 (長岡技術科学大学 工学部
環境・建設系教授)
【略歴】
1948.3 香川県生まれ
1971.3 大阪大学工学部土木工学科卒業
1973.3 大阪大学大学院工学研究科土木
工学専攻修士課程修了
1973.4 川崎重工業株式会社
1982.9 工学博士(大阪大学)
1988.4 長岡技術科学大学工学部助教授
1996.10 長岡技術科学大学工学部教授

1997
～2000年度 土木学会鋼構造委員会幹事長
2003
～2004年度 土木学会鋼構造委員会委員長
2006年度～ 土木学会鋼構造委員会、
鋼・合成構造標準示方書小委員会
委員長

西川 和廣 (国土交通省国土技術政策総合研究
所研究総務官兼総合技術政策研究センター長)
【略歴】
1953.7 東京都生まれ
1976.3 東京工業大学工学部土木工学科
卒業
1978.3 東京工業大学大学院理工学研究科
土木工学専攻修士課程修了
1978.4 建設省入省 土木研究所構造梁部
橋梁研究室 研究員
1987.4 道路局国道第二課課長補佐
1989.4 東北地方建設局酒田工事事務所長
1991.4 土木研究所構造橋梁部橋梁研究室長
2001.4 国土交通省国土技術政策総合研究所
企画部評価研究官
2003.4 独立行政法人土木研究所企画部長
2005.6 国土交通省国土技術政策総合研究所
研究総務官兼総合技術政策
研究センター長

伊藤 學 (社団法人日本橋梁建設協会 会長)
【略歴】
1930.12 東京都生まれ
1947.3 東京大学工学部土木工学科卒業
1959.11 東京大学大学院博士課程終了、
工学博士
1959.12 文部教官 東京大学講師
1972.5 東京大学教授(工学部土木工学科)
1991.4 埼玉大学教授(工学部建設工学科)
1997.4 拓殖大学教授(工学部工業デザイン学科)
2006.1 社団法人日本橋梁建設協会 会長

称号 東京大学名誉教授、埼玉大学
名誉教授、(社)土木学会名誉会員
(社)日本鋼構造協会名誉会員、
米国土木学会(ASCE)名誉会員
国際構造工学会(IABSE)名誉会員
(社)土木学会功績賞

きりとり線

Fax番号. 03-3561-5235

平成18年度
橋梁技術発表会

参加申込書

| | | |
|---------|----------------------|----------------------|
| 所 属 | 団体名 | 所 属 |
| 氏 名 | 役 職 | 氏 名 |
| 郵便番号 | <input type="text"/> | <input type="text"/> |
| 住 所 | <input type="text"/> | |
| 電話番号 | () | Fax番号 () |
| メールアドレス | <input type="text"/> | |
| 前回参加の有無 | 有 | 無 |